

+++++

「植物と人々の博物館メールマガジン」 第45号 2018年7月25日発行

+++++

雑穀見本園の穀類は大方順調に生育しています。トウモロコシ3品種はとても良く生育していたのに、ハクビシンに被害されて、壊滅し、がっかりです。キュウリ、サトイモやサツマイモは良好です。インド・中央アジア調査や真夏のガラス室での交雑実験で鍛えたのですが、今ではとても耐えきれない酷暑です。アキコさんは畑に出ないと言うし、私も午前中で野良仕事は止めました。すぐにでも本気になって環境文化について対策を進めるべきです。

中央ヨーロッパ4カ国をバス旅行してきました。コムギ、カラスムギの畑が延々と続き、収穫期でした。トウモロコシ、ナタネ、ヒマワリも見渡す限りの畑がありました。風力発電風車も何十基とありました。エノコログサは路傍に広く生育していました。各首都のスーパー・マーケットには、BIO製品のキビ、アワ、ソバなどが置いてありました（写真）。博物館はもちろんですが、教会や宮殿には無数の標本、図書が素晴らしい部屋に並べられていました（写真）。

日本村塾ゼミで、自然のなかでの暮らしや生業について皆様と一緒にもっと学び、山村に暮らす楽しみ、人々の幸せや誇りについて語り合いたいです。都市民はもっと自然に親しまないと、人間でないものAIの下僕になってしまいます。50年前の大学部生の頃に書いた拙文を読み返してみたら、今考えていることと同じようなことを書いてました。著者が成長しなかったのか、人類がいよいよ危ないのか？ テラーの本（ヨハネの黙示録）を再読し、反省しながら、エッセイを書いています。

会員および配信を希望される方に「植物と人々の博物館」の公開活動ニュースなどをお送りしています。なお、自然文化誌研究会の全体の活動は会誌「ナマステ」季刊でお知らせしています。友の会会員になっていただければうれしいです。また、顔見知り信頼のクチコミで友人・知人に転送伝達していただけるとありがたいです。

○ 愛媛の民家再生活動への寄付のお願い

この度の豪雨により、愛媛県は大変な被害を受けました。私たちの友人である宮本幹江さんと土井利彦さんらが再生に取り組んでおいでの民家も水害に遭いました（添付）。お二人とも以前は小金井にお住まいでした。宮本さんには民族植物学ノオトの編集を無償でいただいています。土井さんとは江戸東京野菜の復活などでご一緒してきました。このご縁もあり、ささやかでも、水害に遭った民家再生活動を支援できるように、ご援助、ご寄付いただければうれしいです。よろしくお祈りします。

呼びかけ団体： 自然文化誌研究会（中込卓男代表理事）

寄付受付 郵便振替口座： 00100-2-665768 特定非営利活動法人自然文化誌研究会

受付期間： 7月31日から8月31日まで。その後、ご寄付くださった方々には結果報告をいたします。

○ 報告

1. 植物と人々の博物館 学大探検部収集の民具類も整理・収蔵・展示しています。

2. 雑穀街道とFAO世界農業遺産 FAO世界農業遺産関連情報をお伝えするウェブページ『雑穀街道』では、雑穀街道普及会の賛同者を募っています。秩父からも賛同して下さる方が増えています。賛同が広がるようにどうぞご援助くださいますようお願いいたします。FAO世界農業遺産ですから他地域や外国の方々も含めて賛同者を増やすように、一層のご助力をお願いします。下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。世界農業遺産などに関する紙ベースの資料・図書は「植物と人々の博物館／森とむらの図書室」（小菅村井狩）で閲覧していただけます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、『日本雑穀のむら』序章で雑穀の栽培史、第4章で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletsn/jnmpilvil.html>

3. 森とむらの図書室 日本の食文化・民俗関係を整理しています。順次資料のリストはホームページで公開しますので、ご利用ください。

4. 藤野での雑穀栽培講習会は駅前の畑を藤野倶楽部のご厚意でお借りして継続しています。藤野では伝統的にも、新規にも雑穀栽培している方が多くなってきています。

5. 講義：7月22日（日）午後1時～3時、話題：日本に伝播したアフリカ起源の栽培植物と料理。JICA地球広場市ヶ谷。とても暑い中、30人ほどの方が聴講くださいました。講義ppt.は日本村塾に掲載しました。

<http://www.milletimplic.net/collegefores/africainjapan.pdf>

○ 予定

1. 開館作業予定日：2018年7月30日（月）、9日（木）、17日（金）、27日（月）の予定です。

植物と人々の博物館／森とむらの図書室では、順次、図書・植物標本・資料や民具の展示解説をしています。ご利用くださるとともに、作業にご協力いただきたく、よろしくお願いいたします。ご利用や協力いただける方は黒澤または木俣にメールしてください。ご都合に合わせて、上記以外でも日程調整します。場所は小菅村井狩集落バス停近く、細川邸の前、道の駅臨時駐車場の坂を下ってす

ぐです。 kibi20kijin@yahoo.co.jp

2. 食農教育座談会

食べ物、農業、教育などについて語り合います。ご関心のある方はどなたでも歓迎です。

日時:8月20日(月)午後3時~5時 場所:珈琲館、その後、やる気茶屋(?)

* 珈琲館は立川駅南口を出て、そのまま2階デッキを行けば、1分、アレアレア2(東急ストアやラーメンスクエアのあるビル、多摩都市モノレール立川南駅を出たところ)の手前にあります。場所不明の場合は、080-3023-1089 福田携帯にお電話ください。

話題:とりあえず、福田恵一と木俣美樹男が最近思うことなどを話題に、参加者の皆様と一緒に語り合う。

参加費用: 特にありません。各自の交通費とコーヒー代のみ。

3. 環境教育学会エクスカーション: 8月27日(月)。「源流親子留学」見学ツアー(山梨県小菅小学校): 山村での学びと暮らしの視点から

目的 多摩川の源流域に位置する山梨県小菅村では源流の里づくりを行ってきました。その取り組みのひとつである小菅小中学校の「親子源流留学」により、現在、小菅小学校(全校児童36名)ではもともとの小菅村住民の子どもの数を上回る移住住民の子どもが在学しています。小中学校ともに不登校はゼロ。このツアーでは、小菅村の学校関係者、児童の保護者、地域づくりに関わる方々からお話を伺い、教育現場、産物・食事、地域づくりの場を巡り、山村の学びと暮らしを見学・体験します。

日程 2018年8月27日(月) 参加費 実費1,600円(昼食代1,500円+保険代100円) ※バス代は無料(定員20名)

申込 下記メールアドレスにお申込みください。 kosugeee2018@gmail.com 申込締切日 2018年8月5日(日)

スケジュール 8:30 学芸大正門集合・出発 10:30 小菅小学校到着(小学校2階すげのこホールへ)

1部【小菅小学校訪問】 10:30 小菅教育長・小菅小学校校長ご挨拶 10:40 教頭先生による学内案内(子ども達の学級での様子を見学します。) 11:00 「源流親子留学」事業について(教育長) 小菅小学校の概要と特色について(校長先生) 11:30 親子留学をされている保護者の方からのお話(2家庭の方に教育環境、ひと・自然、地域などの視点で実際の村での生活やお子さんの様子などについてお話をいただきます。) 12:40 昼食:小菅の湯レストラン(源流のイワナ刺身、甲斐サーモン焼き、蕎麦、雑穀ご飯など)

2部【源流地域の紹介】案内:NPO法人自然文化誌研究会 黒澤と木俣がご案内します。13:30 村内散策 雑穀見本園~植物と人々の博物館~井狩村営住宅、15:00 道の駅こすげ(フリータイム、買い物) 15:30 小菅村出発、17:30 学芸大正門到着・解散予定

4. 「憲法に環境原則を追加する提案」についての研究会を認定NPO法人環境文明21(憲法部会)で行っています。次回は未定ですが、2018年10月20日(土)、議員会館でシンポジウムを予定しています。ご興味があれば詳細をお知らせします。現在の提案書(憲法前文と第三章環境を加筆)は次のホームページで読めます。

<http://www.kanbun.org/2017/170824teigen/170824teigen.html>

5. 日本村塾の自給農耕ゼミ、民族植物学ゼミ、扶桑こくゼミは、希望者があれば日時・場所・話題などを調整して、読書会を開催します。都市農業や家族農業の図書文献は森とむらの図書室(小菅および藤野分室)で閲覧できます。講演や研究報告はホームページで読めます。

6. 民族植物学第11号を発行しました。会員とご希望の方に差し上げますので、木俣宛メールください。

巻頭言 解きたい謎—西暦第2千年紀に生きる

八丈島における「タコウナ」の食習慣 —主にメダケについて— 宮内(能勢) かおり

九州・沖縄地方における雑穀農耕文化複合 木俣美樹男

自分で日本国憲法を考える — 第2報 憲法に書き加える環境原則 木俣美樹男

信仰の個人主義を探る—発端:科学への妄信を越えるために 木俣美樹男

書評: 安田喜憲著『環境文明論—新たな世界史像』 安孫子昭二

環境学習セミナー報告(第37回、第38回、第39回) 黒沢友彦

編集後記 宮本幹江

第12号の原稿締め切りは2018年8月末です。関東地方の雑穀栽培、先真文明への覚書5、書評など準備していますが、ご寄稿を歓迎します。バックナンバーは第7号~第10号まで少しあり、希望者に差し上げます。第1号から第11号まで、すべての記事は植物と人々の博物館ホームページで読めます。メールマガジンもすべて記録してあります。ナマステ第132号には夏の活動予定や旅行記などのエッセイが載っています。自然文化誌研究会のホームページで読めます。

7. 『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』は民族・信仰について学びながら、南アジアについて、個人の現地調査の体験をまじえながら、自由に書いています。現在はスリランカとバングラデシュの雑穀を研究会に参加し、文献を読んで、学んでいます。『日本雑穀のむら』は序章雑穀との出会い、補論1 雑穀の用語法を新たに公開しました。『環境学習原論』および『第四紀植物』、「Essence of Ethobotany」はまだ非公開ですが、書き進めています。これらは、下記の個人ホームページで読めます。引用して下さる場合は、順次必要に応じて改訂していきますので、「木俣(2018未定稿)」としてくださるようお願いいたします。

自然文化誌研究会（東京都日野市）：代表 中込卓男、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

ミューゼス研究会／トランジション小菅（山梨県小菅村）：代表 青柳諭、副代表 亀井雄次

植物と人々の博物館（山梨県小菅村）：館長 木下善晴

日本村塾生・研究員：木俣美樹男（東京）、西村俊（石川）、藤盛礼恵（千葉）ほか

雑穀街道普及会 <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） npo-inch@wine.plala.or.jp

公式 HP：自然文化誌研究会 <http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

メールマガジン発行：木俣美樹男 kibi20kijin@yahoo.co.jp

個人 HP：生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

写真



ハンガリー、ブダペストのスーパー・マーケットのbio雑穀。中部ヨーロッパのコムギ畑の景観



チェコ、プラハのストラホフ修道院の図書室と標本展示